

依存症の重症度と 運転免許の診断書 についてのアンケート

アルコール依存症の治療は、これまで断酒が唯一の治療目標とされてきました。しかし近年では、ハームリダクションの概念の普及、飲酒量低減薬の上市、そしてDSM-5において、従来の「アルコール依存症」は「アルコール使用障害」へと病名が変更され、その重症度を評価するようになったことから、アルコール依存症の疾患概念自体が広がってきました。そして「新アルコール・薬物使用障害の診断治療ガイドライン 2018」では、アルコール依存症の治療目標として、断酒以外にも飲酒量低減(以下、「減酒」と表記)も治療目標の選択肢に加えられるようになりました。

本アンケートは日本アルコール関連問題学会および日本アルコール・アディクション医学会の先生方にアルコール依存症の疾患概念について、様々な診断基準やスクリーニングテストの項目や架空の症例を通してご意見を伺い、アルコール依存症の重症度、そして運転免許の新規・更新申請の際の診断書に関して、両学会としてコンセンサスを形成することを目的に作成されました。

ご多用のところ恐れ入りますが、現在そして未来のアルコール依存症の治療・回復の更なる質の向上のために、アンケートへのご協力をよろしくお願い申し上げます。

運転免許更新に係るワーキンググループ

委員長： 杠 岳文(国立病院機構 肥前精神医療センター)

委員： 齋藤 利和(社会医療法人博友会 平岸病院)：AA医学会

宮田 久嗣(東京慈恵会医科大学 精神医学講座)：AA医学会

西谷 陽子(熊本大学大学院生命科学研究部 法医学講座)：AA医学会

角南 隆史(佐賀県医療センター好生館)：関連問題学会

露木 寛之(国立病院機構 久里浜医療センター)：関連問題学会

アドバイザー：樋口 進(国立病院機構 久里浜医療センター)：関連問題学会

まず先生ご自身について、お教えてください(当てはまるものに○をつけて下さい)

性別：①男性 ②女性

年齢：①20代 ②30代 ③40代 ④50代 ⑤60代 ⑥70代以上

現在の所属機関：(複数選択可)

①大学病院 ②総合病院 ③精神科病院 ④クリニック ⑤その他()

診療科：(主とする診療科を1つ選択してください)

①精神科 ②内科 ③外科 ④プライマリケア ⑤救急 ⑥産業医 ⑦その他()

アルコール依存症の患者さんの診療経験：

①なし ②9年以下 ③10～19年 ④20年以上

今までに経験したアルコール依存症に関する診療経験：

①外来診療のみ ②入院診療のみ ③外来・入院診療ともに ④その他()

専門医など取得の有無：(お持ちの資格に○をつけてください)

①日本精神神経学会 ②精神保健指定医 ③内科系専門医 ④その他()

第1部：

下記の内容は、アルコール使用障害およびアルコール依存症の診断基準やスクリーニングテストの項目などを参考に作成されたもので、アルコール依存症の患者さんによく認められる症状・症候です。

先生は、下記に示された各々の症状・症候のある患者さんを診た時に、次の①、②、③のうち、どのレベルの患者さんをイメージしますか？

①、②、③のいずれか1つの番号を、下記の項目の()内に記載してください。

<各選択肢の説明>

- ①危険または有害な使用：依存症の診断基準を満たさず、減酒が推奨される者
- ②軽症依存症：依存症の診断基準を満たすが、治療目標として減酒も容認できる者
- ③中等症依存症：①と③の間
- ④重症依存症：依存症の診断基準を満たし、当初より治療目標を断酒とすべき者

- ・①危険または有害な使用（減酒が推奨される者）
- ・②軽症依存症（治療目標として減酒も容認できる者）
- ・③中等症依存症（①と③の間）
- ・④重症依存症（治療目標を断酒とすべき者）

①、②、③のいずれか1つの番号を、()内に記載してください

- () 仕事が終わると決まって飲みに行く。
- () 仕事でも酒の事ばかり考えている。
- () いつも、決めていた量や切り上げる時間を超えて飲んでしまう。
- () いつも泥酔するまで飲んでしまう。
- () お酒が切れると、イライラする、落ち着かなくなる。
- () 飲酒をやめると手が震える、寝汗をかく、眠れなくなる。
- () 以前と同じ量では酔えなくなった、以前よりもたくさん飲まないで酔えなくなった。
- () 趣味などの活動より、お酒を優先させる。酔いから覚めるのに、多くの時間を使ってしまう。
- () 健康診断で肝機能障害を指摘されているのに飲酒してしまう、医師から酒を控えるように言われているのに守れない。
- () 飲酒のために欠勤を繰り返したり、仕事の能率が低下する。飲酒のために学校を欠席したり、停学、退学になる。飲酒のために育児や家事がおろそかになる。
- () 飲酒に関連した夫婦喧嘩、暴力を伴う喧嘩。
- () 飲酒運転、飲酒して機械を操作する。

- ・②危険または有害な使用（減酒が推奨される者）
- ・①軽症依存症（治療目標として減酒も容認できる者）
- ・②中等症依存症（①と③の間）
- ・③重症依存症（治療目標を断酒とすべき者）

①、②、③のいずれか1つの番号を、()内に記載してください

() 過去1年以内に、飲酒を繰り返し、絶えず体にアルコールが入っている状態を3日以上続けたことが3回以上ある。

() 過去1年以内に、体の病気の治療のため、医師から飲酒をやめるよう助言を受けているにもかかわらず、飲酒したことが3回以上ある。

() 酒をやめる必要性を感じたことがある。

() 酒を飲まなければいい人だ、とよく言われる。

() 家族に隠れるようにして、酒を飲むことがある。

() 酒を飲まないほうがよい生活を送れそうだ、と思う。

() せめて今日だけは酒を飲むまいと思っても、つい飲んでしまうことが多い。

() 酒の量を減らそうとしたり、酒を止めようと試みたことがある。

() 飲酒しながら、仕事、家事、育児をすることがある。

() 自分のしていた仕事を、まわりの人がするようになった。

() 自分の飲酒について、うしろめたさを感じたことがある。



<AUDIT>

先生が考える、①軽症依存症と②中等症依存症の境目に、横線を入れてください

例:(これは、あくまで例であり、学会としての公式な見解ではありません)

①お酒を購入した年齢

- ・25歳
- ・20歳
- ・18歳
- ・15歳
- ・12歳

①軽症依存症

②中等症依存症

- ・①危険または有害な使用 (減酒が推奨される者)
- ・①軽症依存症 (治療目標として減酒も容認できる者)
- ・②中等症依存症 (①と③の中間)
- ・③重症依存症 (治療目標を断酒とすべき者)

①飲酒の頻度

- ・飲まない
- ・1カ月に1度以下
- ・1カ月に2～4度
- ・1週に2～3度
- ・1週に4度以上

②1回あたりの飲酒量(1ドリンクは純アルコール10gに相当)

- ・1～2ドリンク
- ・3～4ドリンク
- ・5～6ドリンク
- ・7～9ドリンク
- ・10ドリンク以上

③1度に6ドリンク(純アルコール60g)以上飲酒する頻度

- ・ない
- ・1カ月に1度未満
- ・1カ月に1度
- ・1週に1度
- ・毎日あるいはほとんど毎日

④過去1年間に、飲み始めると止められなかったこと

- ・ない
- ・1カ月に1度未満
- ・1カ月に1度
- ・1週に1度
- ・毎日あるいはほとんど毎日

裏面に続きます



- ・④危険または有害な使用（減酒が推奨される者）
- ・①軽症依存症（治療目標として減酒も容認できる者）
- ・②中等症依存症（①と③の間）
- ・③重症依存症（治療目標を断酒とすべき者）

①軽症と②中等症の境目に、横線を入れてください

⑤過去 1 年間に、普通だといえることを飲酒していたためにできなかったこと

- ・ない
- ・1 カ月に 1 度未満
- ・1 カ月に 1 度
- ・1 週に 1 度
- ・毎日あるいはほとんど毎日

⑥過去 1 年間に、深酒の後体調を整えるために、朝迎え酒をせねばならなかったこと

- ・ない
- ・1 カ月に 1 度未満
- ・1 カ月に 1 度
- ・1 週に 1 度
- ・毎日あるいはほとんど毎日

⑦過去 1 年間に、飲酒後罪悪感や自責の念にかられたこと

- ・ない
- ・1 カ月に 1 度未満
- ・1 カ月に 1 度
- ・1 週に 1 度
- ・毎日あるいはほとんど毎日

⑧過去 1 年間に、飲酒のため前夜の出来事を思い出せなかったこと

- ・ない
- ・1 カ月に 1 度未満
- ・1 カ月に 1 度
- ・1 週に 1 度
- ・毎日あるいはほとんど毎日

⑨自身の飲酒のために、自身もしくは他の誰かがけがをしたこと

- ・ない
- ・あるが、過去 1 年にはなし
- ・過去 1 年間にあり

⑩肉親や親戚、友人、医師、あるいは他の健康管理にたずさわる人が、自身の飲酒について心配したり、飲酒量を減らすように勧めたりしたこと

- ・ない
- ・あるが、過去 1 年にはなし
- ・過去 1 年間にあり

第2部:

下記の症例A～Cは、様々な程度にアルコール問題を持つ、架空の症例です。

症例A～Cのそれぞれの場合、先生は、次の①、②、③のうち、どのレベルの患者さんと判断しますか？

- ・① **軽症**依存症 (治療目標として**減酒**も容認できる者)
- ・② **中等症**依存症 (①と③の**中間**)
- ・③ **重症**依存症 (治療目標を**断酒**とすべき者)

①、②、③の**いずれか1つ**の番号を、下記の項目の()内に記載してください

症例A: ()

《50歳男性、会社員。肥満と高血圧で内科を受診している。主治医より減酒指導を受け、週1日は休肝日にすることを目標に掲げているが、休肝日ができずに焼酎2合(7.2ドリンク)を毎日飲酒している。本人も体重が減らず、減酒の必要性を感じている。》

ICD-10の依存症候群の診断基準は、3項目(飲酒行動のコントロール不能、耐性の増大、有害な使用に対する抑制の喪失)を満たし、アルコール依存症と診断できる。

この症例に下記の症状が加わった場合、先生は、①、②、③のうち、どのレベルの患者さんと判断しますか？

- | | |
|-------------------------------------------------|--------------------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 離脱時の手指振戦 | <input type="checkbox"/> 仕事が終わると決まって飲みに行く |
| <input type="checkbox"/> 離脱けいれん(1年前に1回) | <input type="checkbox"/> 仕事でも酒の事ばかり考えている |
| <input type="checkbox"/> 家族に隠れ自室で飲酒(月2回) | <input type="checkbox"/> いつも泥酔するまで飲んでしまう |
| <input type="checkbox"/> 休日昼間の飲酒(週1回) | <input type="checkbox"/> 趣味などの活動より、お酒を優先させる |
| <input type="checkbox"/> 2日間続く連続飲酒(年2回) | <input type="checkbox"/> 「自分の酒量は適量、依存症ではない」と言い張る |
| <input type="checkbox"/> 糖尿病(経口糖尿病薬を服用中) | |
| <input type="checkbox"/> 代償性肝硬変 | |
| <input type="checkbox"/> アルコール性急性膵炎(1年前に1回) | |
| <input type="checkbox"/> うつ病(抗うつ薬を少量服用中) | |
| <input type="checkbox"/> 不眠症で睡眠薬を服用中 | |
| <input type="checkbox"/> 酩酊時の家族への暴言・暴力(年2回) | |
| <input type="checkbox"/> 飲酒運転(朝酒臭が残った状態で運転、年2回) | |
| <input type="checkbox"/> 二日酔いで欠勤(月1回) | |
| <input type="checkbox"/> 前夜の記憶が無くなるブラックアウト(月1回) | |
| <input type="checkbox"/> 酩酊しての外傷(年2回) | |
| <input type="checkbox"/> 飲酒問題が原因で妻と別居中 | |

裏面に続きます →

- ・① **軽症**依存症 (治療目標として**減酒**も容認できる者)
- ・② **中等症**依存症 (①と③の**中間**)
- ・③ **重症**依存症 (治療目標を**断酒**とすべき者)

①、②、③の**いずれか1つ**の番号を、下記の項目の()内に記載してください

症例B: ()

《50歳男性、会社員。焼酎2合(7.2ドリンク)を週6日飲酒している。仕事帰りには、ほぼ毎日一人でも途中で一杯飲んでから帰宅する。また、週末は夜10時までには帰ると約束していても、つい終電まで飲酒してしまいたびたび妻に怒られている。先日、帰宅途中に酔って転倒し足をねん挫したため、自分の飲酒について危機感を持ち始めた。》

ICD-10の依存症候群の診断基準は、3項目(渴望、飲酒行動のコントロール不能、耐性の増大)を満たし、アルコール依存症と診断できる。

この症例に下記の症状が加わった場合、先生は、①、②、③のうち、どのレベルの患者さんと判断しますか？

- | | |
|--------------------------------------------------|----------------------------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 離脱時の手指振戦、発汗 | <input type="checkbox"/> 仕事でも酒の事ばかり考えている |
| <input type="checkbox"/> 離脱けいれん(半年前に1回) | <input type="checkbox"/> いつも泥酔するまで飲んでしまう |
| <input type="checkbox"/> 家族に隠れ自室で飲酒(週1回) | <input type="checkbox"/> 趣味などの活動より、お酒を優先させる |
| <input type="checkbox"/> 休日昼間の飲酒(週2回) | <input type="checkbox"/> 健診で肝障害を指摘され、減酒を指導されたが変わらず飲酒している |
| <input type="checkbox"/> 2日間続く連続飲酒(年4回) | |
| <input type="checkbox"/> 糖尿病(インスリン注射中) | |
| <input type="checkbox"/> 非代償性肝硬変 | |
| <input type="checkbox"/> アルコール性急性膵炎(半年前に1回) | |
| <input type="checkbox"/> うつ病(休職中) | |
| <input type="checkbox"/> 不眠症で睡眠薬を2種服用中 | |
| <input type="checkbox"/> 酩酊時の家族への暴言・暴力(年4回) | |
| <input type="checkbox"/> 飲酒運転(朝酒臭が残った状態で運転、年4回) | |
| <input type="checkbox"/> 二日酔いで欠勤(月2回) | |
| <input type="checkbox"/> 前夜の記憶が無くなるブラックアウト(月2回) | |
| <input type="checkbox"/> 飲酒問題が原因で妻と別居中 | |
| <input type="checkbox"/> 「自分の酒量は適量、依存症ではない」と言い張る | |

①、②、③のいずれか1つの番号を、下記の項目の()内に記載してください

症例C: ()

《50歳男性、自営業。健診で軽度の肝障害(γGTP 100)を指摘され、減酒指導を受けた。しかし取引先との付き合いが多く、外で主にビールを4本(8ドリンク)／日を週5日変わらず飲酒している。週末は禁酒できている。日曜日の夕方以後、わずかな手指振戦と入眠困難を自覚するようになり、アルコール依存症でないかと不安を抱いている。》

ICD-10の依存症候群の診断基準は、3項目(耐性の増大、離脱症状、有害な使用に対する抑制の喪失)を満たし、アルコール依存症と診断できる。

この症例に下記の症状が加わった場合、先生は、①、②、③のうち、どのレベルの患者さんと判断しますか？

- | | |
|--------------------------------------------------|---------------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 離脱けいれん(1年前に1回) | <input type="checkbox"/> 仕事が終わると決まって飲みに行く |
| <input type="checkbox"/> 家族に隠れ自室で飲酒(月2回) | <input type="checkbox"/> 仕事でも酒の事ばかり考えている |
| <input type="checkbox"/> 休日昼間の飲酒(週1回) | <input type="checkbox"/> いつも泥酔するまで飲んでしまう |
| <input type="checkbox"/> 2日間続く連続飲酒(年2回) | <input type="checkbox"/> 趣味などの活動より、お酒を優先させる |
| <input type="checkbox"/> 糖尿病(経口糖尿病薬を服用中) | |
| <input type="checkbox"/> 代償性肝硬変 | |
| <input type="checkbox"/> アルコール性急性膵炎(1年前に1回) | |
| <input type="checkbox"/> うつ病(抗うつ薬、睡眠薬を服用中) | |
| <input type="checkbox"/> 不眠症で睡眠薬を服用中 | |
| <input type="checkbox"/> 酩酊時の家族への暴言・暴力(年2回) | |
| <input type="checkbox"/> 飲酒運転(朝酒臭が残った状態で運転、年2回) | |
| <input type="checkbox"/> 二日酔いでの欠勤(月1回) | |
| <input type="checkbox"/> 前夜の記憶が無くなるブラックアウト(月1回) | |
| <input type="checkbox"/> 酩酊しての外傷(年2回) | |
| <input type="checkbox"/> 飲酒問題が原因で妻と別居中 | |
| <input type="checkbox"/> 「自分の酒量は適量、依存症ではない」と言い張る | |

依存症の重症度、「軽症依存症」について、自由なご意見をお願いします。

裏面に続きます →

第3部:

飲酒運転は大きな社会問題となっています。先生は、下記のような診断書の記載を患者さんから依頼されたことはありますか？

あり、なしのいずれかに、○をつけてください。

(あり なし)

(アルコールの中毒者関係)診断書(熊本県様式):

(アルコールの中毒者関係)

診 断 書

(熊本県公安委員会提出用)

1 住所
氏名 男・女
生年月日 M・T・S・H 年 月 日生 (歳)

2 医学的判断

- 病名
- 総合所見 (現病歴、現在症、重症度、治療経過、治療状況など)

3 現時点での病状 (改善の見込み等) についての意見

ア アルコール依存症 (国際疾病分類 (ICD-10) における F10.2 から F10.9 までに該当する者) について断酒を継続しかつアルコール使用による精神障害や健忘症候群、残遺性障害及び遅発性の精神障害 (アルコール幻覚症、認知症、コルサコフ症候群等) のない状態を続け、再飲酒するおそれが低いと認められる。

イ アとはいえないが、6か月 (か月) 以内に上記アと診断できることが見込まれる。

ウ 上記ア・イのいずれにも該当しない。

4 その他特記すべき事項

専門医・主治医として以上のとおり診断します。

令和 年 月 日

病院又は診療所の名称・所在地 (電話番号)

担当診療科名

担当医師氏名

印



先生が上記の診断書を記載する上で、これまでに困ったことがありますか？
あり、なしのいずれかに、○をつけてください。

(あり なし)

※「あり」の場合は、具体的に困った内容を教えてください

(下記から選択して○をつける、もしくは「その他」に記載。複数選択可)

- ・断酒を継続しているものの、診断書の記載時点で6か月には満たないので
- ・断酒はできておらず飲酒は続いており、今後も断酒できる見込みがないので
- ・断酒ではなく、減酒を目標に治療を行っているので
- ・その他(_____)

運転免許、診断書に関する事など、自由なご意見をお願いします。

アンケートにご回答いただきまして、誠にありがとうございました。